

福岡証券取引所の挑戦

地方都市に取引所が存在する意義と今後の展望

小西雄二氏（福岡証券取引所）

1. 福岡証券取引所(以下福証と省略)の概要

1990年代の終わりから、経済の東京一極集中、通信手段の発達、各取引所のテリトリ制の廃止などから、各地の取引所が廃止になった。九州の経済界では、今後アジア経済が発展する中で、九州が拠点的作用を果たしてゆくため、直接金融市場の存続が地域経済にとって重要な要素であるとして、「福岡証券取引所活性化推進協議会」を立ち上げ、福証の存続を図ることとなった。

2. 福証の進む方向と特徴

福証は、地域経済の活性化を支えるべく、地域の中小企業やベンチャー企業の創業及びファイナンスを支え、他方、投資家の便宜に応じてゆくことを使命とする。このことは地域経済が、自主性・主体性を高めていくうえで、必要不可欠な直接金融インフラとしての機能を発揮し、存在感を高めていくことでもある。

3. 重要課題への3つの取り組み

第一は域内企業の新規上場の促進である。この活動として最も中心となるのは個別企業の訪問である。これは従来の取引所の枠を超え、活性協の支援を受けた福証の営業の中心で、頻繁に企業訪問を繰り返す地道な活動が主力である。また企業情報の収集では、地公体や各地の産業支援団体との協力関係の構築も必須であり、これらの団体の催しには欠かさず出席し

ている。更に地元の団体と共同で、①IPO 挑戦隊(将来 IPO を目指す企業を4～5社選定し年間10回程度の上場実務のセミナーを行う支援活動)の実施

や②九州 IPONAVIGATE を運用し IPO に関心のある者に情報提供を行う仕組み等を開設している。

第二に売買市場の活性化である。まず投資家に向けて、福証上場企業の「IR フェア」を実施し、「福証単独上場会社の会」を組織し取引の増加を上場会社とともに図っている。また取扱証券会社の増加にも努めている。

第三にアジアとの資本交流の促進である。九州とアジア諸国との経済交流が一段と深まっている現状を踏まえ、外国株等の上場を進めて行くよう努めている。